

6 学生支援に関する事項

1 キャリア開発・就職支援について

「キャリア教育」及び「キャリア開発・就職支援」は、第5次長期計画において本学の重点的施策のひとつに位置づけ、「教学こそが最大のキャリア支援である」という認識のもと、教学と連携し、普段からの教育活動を通して学生の自己成長を促しながら将来に向けた進路選択支援に取り組んでいる。

2011年度は、「キャリア支援ポリシー」に基づき、「キャリア教育」と「就職支援」の2点をキャリア支援の重要な柱とし、ポリシーを全学的に周知すると同時に、それに基づき様々な事業を実施した。さらにキャリア教育については、キャリア教育推進方策検討プロジェクトを設置し、今後のキャリア教育に対する取り組みについて具体的な方向性を示した。就職支援については、東日本大震災の影響や一般社団法人 日本経済団体連合会の倫理憲章等に対応しながら、①業界・企業研究、②筆記試験対策、③書類(履歴書・エントリーシート等)対策、④面接対策の4つのポイントについて様々な事業を実施した。筆記試験、書類選考の対策はもちろんのこと、新たに設けた学生担当制に基づき、face to faceの面談に注力した。

1 就職活動の支援

●学生支援推進プログラムの推進

「就活状況把握システム」をWeb履修登録と連動させることにより、学生の就職活動状況を把握し、集積したデータを活用して電話等のアプローチを効果的にこなした。これにより、学生の実態に応じた支援を行うことができた。

●窓口での学生相談の強化

学生担当制により、スタッフ1人あたり約200名の学生を担当し、メールや電話等でイベントへの参加やキャリア開発部への誘導を行い、学生個人の実態やニーズをふま

た学生相談・指導に取り組んだ。その結果、キャリア開発部の利用率は2010年度の40.04%より11.5ポイント向上し、51.58%となった。

●筆記試験・エントリーシート対策の強化

筆記試験対策として、6月と10月に模擬試験を無料で実施し、その結果に対応する形で対策講座を実施した。また、エントリーシート対策として、9月に全学部を対象とした対策講座を実施し、さらにゼミ単位で行うステップアップゼミ等で自己分析の方法や書き方のポイントなどについての指導をおこなった。

●大阪梅田キャンパスでの支援の充実

立地条件を有効に活かし、就職活動生のPC利用や証明書発行に供するだけでなく、カウンセリングや各種セミナー等を開催した。利用学生は延べ16,762名で、そのうち面談利用は2,243名にのぼった。さらに本学学生と企業とのマッチング事業として企業説明会を開催し、のべ136社の参加企業に対し、1,211名の学生が参加した。

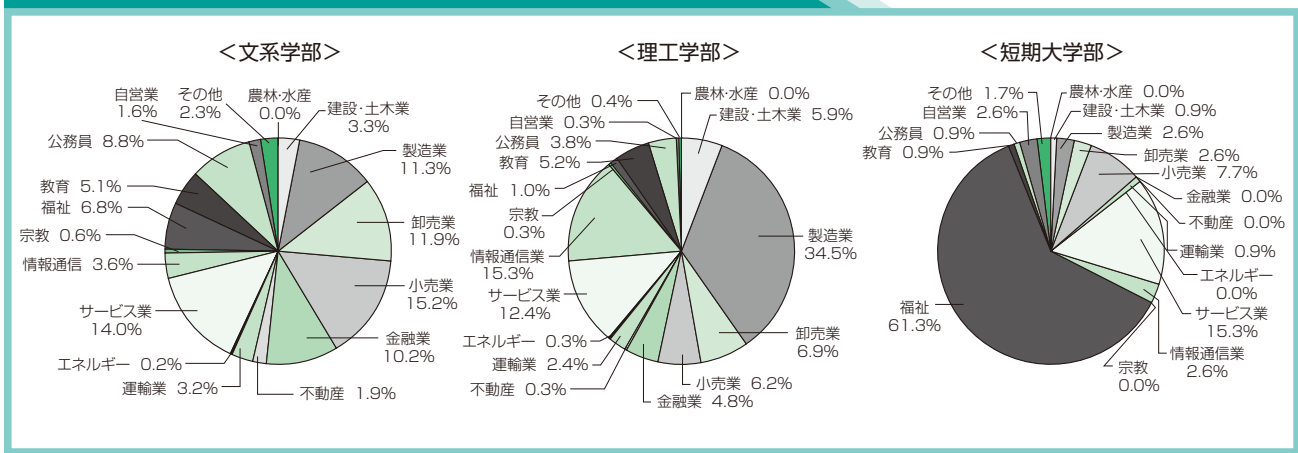
●大学院生、障がいを持った学生、留学生へのキャリア開発支援

大学院生に対しては、学部生と同様の支援環境に加え、大学院生特有の状況に応じたキャリア開発支援をおこなった。また障がいを持った学生に対しては、ハローワークや障がい者支援を行う外部機関(民間業者含む)との連携のもと、就職に関する講演会等をおこなった。留学生に対しては、深草・瀬田の両キャンパスにおいて連続セミナーを実施し、日本での就職を早期から意識させる機会を提供すると同時に留学生のための合同企業説明会の情報提供を行うなど、積極的に就職支援に取り組んだ。

●卒業生支援の充実

卒業生支援を行うキャリアカウンセラーを2名配置し、担当制による支援の強化を図った。さらにセミナー等を開催し、意識の強化やマッチングの機会を増やした結果、2011年度(2012.1月現在)においては、卒業生支援センター登録者の就職決定率は46.2%となった。

2012年度卒業生の業種別進路選択状況



● U・Iターンに対する支援の充実

鳥取県との就職支援を柱とした包括協定に続き、徳島県と就職支援に関する協定を締結し、学生のU・Iターン支援に取り組んだ。さらに、北陸地方へのU・Iターン支援策として、金沢市において2月に合同企業説明会（約30社参加）、保護者対象の講演会・懇談会を開催した。なお、2012年4月には広島県との就職支援に関する協定締結を予定している。

2 企業の開拓

● 企業訪問の強化

企業訪問の目的や地域ごとに訪問担当を決めるなど取り組み体制を明確化し、効率的な企業訪問ができる体制を整備した。また、特色ある中堅・中小企業を抽出し幅広く企業訪問ができるように今まで以上に訪問体制を充実させた。

● 関西に拠点を置き地域発展に貢献している企業へのアプローチ

企業開拓専門スタッフの企業訪問と並行して、新たに配置された渉外アドバイザーと連携しながら、積極的に関西の企業を訪問した。また、京都経営者協会へ入会し、京都を中心とした地元中小企業等とのネットワーク強化に取り組んだ。

● 企業・大学懇談会の開催

2011年度は、企業・大学懇談会を大阪で2回、東京で1回、合計3回開催した。参加企業は述べ322社にのぼり、2010年度より141社多く参加いただいた。

● 全国保護者懇談会開催地域の企業訪問

全国保護者懇談会の開催地域近辺に本社を置く企業やジョブ・カフェ等を訪問し、本学在学生の保護者が在住している地域のUターン等に関する情報を重点的に収集した。集めた情報は、保護者懇談会で紹介するとともに、会場によっては地元ジョブ・カフェ等の担当者から直接保護者に対し情報提供を行うなど、行政機関との関係強化にも取り組んだ。

3 キャリア形成支援の充実

● 初年次向けキャリア形成支援の充実

フレッシュヤーズキャンプにおいて、「大学生活の咲かせ方ガイダンス」を行い、学内資源を活用してサークル活動やボランティア等の様々な正課外活動を積極的に取り組むよう指導した。また、アセスメント・ツールである「自己発見レポート」を活用し、学生自身が現在の自分自身の強みや弱みを理解し、学びの姿勢を醸成する機会を提供した。

● 2年次向けキャリア形成支援プログラムの実施

キャリアロールモデルの理解や社会性・態度の醸成を図るため、夏期休暇に1泊2日の合宿形式のサマーキャンプを開催した。参加した学生は、ワークショップ等を通じ、先輩学生や他大学生との交流を通じて多様な価値観や相互理解を深めることができた。参加人数は72名であり、アンケートの結果、97.1%の学生が満足したと回答しており有効性の高い事業となった。

● 各学部のゼミ・演習等との連携・協働

2011年度においては、経済学部・経営学部の「入門演習・

ゼミ」の1コマにおいて、キャリア開発部のスタッフが講師を担い、少人数での双方向によるキャリアガイダンスを実施した。

● キャリアサポータープログラムの充実

キャリアサポーターについては、キャリア開発部のイベントでのサポートに加え、9月にはキャリアサポーターが独自で企画したイベントを開催し、約100名の学生が参加した。さらに学生自身が企画・構成したキャリアニュースレターを創刊した。

4 キャリア支援講座の展開

● 学生・社会のニーズに対応した資格系対策講座の提供

学生・社会のニーズに対応した資格系対策講座を厳選して学内で実施した。学生の時間的、経済的負担を抑え、資格取得に挑戦しやすい環境を提供したが、受講希望生の少ない講座については開講を見送ったため、支援講座全体では2010年度と比べ78.9%の受講者となった。

● 公務員講座の充実

2011年度は、305名が公務員講座を受講した。一人でも多くの公務員合格者を輩出できるように、理解度が低い科目に対しては補講を行うなどの内容充実に努め、夏季休暇中には前期の総括的な講座を実施するなどフォロー態勢を強化した。また、難関な試験に備えるため、低年次から受講できるように講座提供をおこなった。

● TOEIC講座の充実

学生のレベルに応じたクラス編成ができるようプレイスメントテストを実施し、その習熟度に応じた得点別の講座を、深草・瀬田学舎で計9クラス開講した。

● ホームヘルパー2級講座の充実

福祉職へのニーズの高まりを受け、2010年度深草・瀬田キャンパス合わせて計4講座であったものを8講座に増やして開講し、学生ニーズに応じて講座を充実させた。

5 インターンシップの展開

● 協定型インターンシップの充実

協定型インターンシップ担当教員を2010年度の5名から7名に増員し、学内の体制を充実させた。また、事後学習の最終報告会で代表に選ばれた4グループは、企業関係者約280名が参加した「企業・龍谷大学懇談会」において成果報告を行い、広く社会にも成果をアピールした。

● 多様なインターンシップの情報提供

3学舎においてインターンシップガイダンスを実施し、協定型インターンシップや大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラム等の情報提供を行い、867名の学生が参加した。また、インターンシップ推進団体や企業等が実施する自己応募型インターンシップの情報も収集し、随時「龍ナビ」上に公開した。

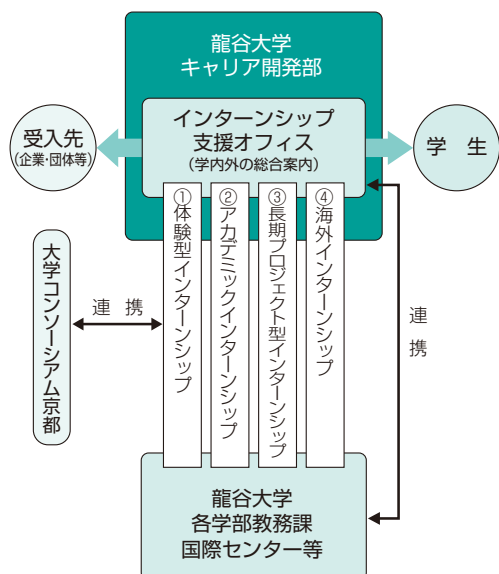
● 学生の多様なインターンシップ参加の支援

自己応募型インターンシップに応募した学生は6月末日時点で10名（選考通過者は3名）であった。このため、マナー講座やリスクマネジメント講座などは開講せず、窓口においてそれぞれ個別の状況に応じた支援をおこなった。

インターンシッププログラムの展開

4つのタイプのインターンシッププログラムを全学で展開し、学生の自立とキャリア形成を支援しています。

〈インターンシップの推進体制とプログラムの概要〉



①体験型インターンシップ

企業・行政機関・NPO等において行う、実習期間が2週間～1カ月程度の短期体験型学習プログラムです。

②アカデミックインターンシップ

学部専門教育の一つの柱として、学部の専門性をいかしたプログラムで、龍谷大学インターンシップのコアプログラムです。

③長期プロジェクト型インターンシップ

高度人材育成を念頭に置いた長期プロジェクト型インターンシップ（期間は少なくとも1セメスター：半年間）で、プログラム形成そのものを学生と共に構築し、明確にアウトプットがわかるプロジェクト型成果重視のインターンシップです。

④海外インターンシップ

在外企業や、国際機関などへのインターンシップを海外で展開します。

〈2011年度 龍谷大学インターンシッププログラムの実施状況〉

インターンシップ名称	プログラム名称	単位認定	対象	参加人数
①体験型インターンシップ	大学コンソーシアム京都インターンシップ「夏期インターンシップ」	学部により異なる	全学部	112
	「協定型インターンシップ」	認定（短大以外）	全学部	124
	「自己応募型インターンシップ」 一企業・団体等が独自に行うインターンシップに学生自ら応募するインターンシップ	学部により異なる	全学部	15
②アカデミックインターンシップ	「法律実務論」	認定		11
	「法律事務実務I」 実地研修 「法律事務実務II」 実地研修	認定	法学部	15
	「学外実習（キャリア実践実習）」	認定	理工学部	232
	「キャリアアップ実習」	認定	社会学部（コミュニケーションマネジメント学科）	2
	「社会福祉援助技術現場実習IIA」	認定	短期大学部（社会福祉学科）	50
	「社会福祉援助技術現場実習IIB」	認定		94
	「コーオプ実習」	認定		74
③長期プロジェクト型インターンシップ	大学コンソーシアム京都インターンシップ「長期プロジェクト型インターンシップ」	学部により異なる	全学部	11
	高度人材育成を目的としたエクスターンシップ 「法務研修」	認定	法務研究科（法科大学院）	20
	高度人材育成を目的としたインターンシップ 「行政インターンシップA・B」 「NPOインターンシップA・B」	認定	政策学研究科 法学研究科・経済学研究科・社会学研究科	8
④海外インターンシップ	「海外インターンシップ（途上国）」 「海外インターンシップ（米国）」	認定	政策学研究科 法学研究科・経済学研究科（NPO地方行政コース）	3
	海外キャリア実践教育及び実習	認定	理工学部	16
	「短期留学制度（インターンシップ）」	認定	国際文化学部	0
	合 計			787

2 学生生活・課外活動支援について

学生生活全般において、学生自らが豊かな人間性を身につけることができるよう、学生生活支援、課外活動支援を中心に学生生活が充実するよう努めた。

学生生活支援は、学内制度である短期貸付金制度、学費の延納・分納制度、東日本大震災特別援助奨学金及び帰省費用援助金、2011年度に制度を再整備した家計急変奨学金、日本学生支援機構奨学金等により、多様な経済支援をおこなった。

また、「なんでも相談室」のカウンセラーが個別の相談に応じ、保健管理センターにおける「こころの相談室」と連携し、学生の悩みを早期に解決すべく対応した。その他にも禁止薬物乱用への注意喚起や卒煙支援のためのキャンペーンを保健管理センター、学友会と共同で実施した。

課外活動支援では、サークル員や指導者と連携し、活発な活動が円滑にできるよう経済的な支援をはじめ多面

的な支援を実施した。特に課外活動は人格形成・人間形成に役立つ「教育」の重要な機会であり、また、課外活動の活性化は大学の活性化に寄与するとの認識のもと幅広い支援をおこなった。

1 経済的支援（奨学金など）の充実

●東日本大震災特別援助奨学金及び帰省費用援助金による経済支援

東日本大震災で被災した学生に対し、学修継続の支援を目的として、「東日本大震災に伴う特別援助奨学金」を17名に、「東日本大震災に伴う帰省費用援助金」を17名に交付した。

●「家計急変奨学金」制度による経済支援

リーマンショックに端を発する経済不況に対応すべく2009年度より2年度間の時限制度として設置された「経済不況に伴う緊急特別経済援助奨学金」制度が2010年度末をもって期限満了を迎えたが、依然経済状況は厳しいことから「家計急変奨学金」の運用基準を見直した。このことに

より、家計急変に伴う緊急度の高い学生36名に奨学金を給付し、引き続き経済的支援をおこなった。

●「家計奨学金」制度による経済支援

経済的な支援が必要な学生191名に対して大学独自の奨学金を給付し経済支援をおこなった。

●学費延納制度及び学費分納制度ならびに短期貸付金制度による経済支援

学費の一括納入が困難な場合に、大学に届け出ることにより、学費の納付期限を延期（延納）、分割（分納）することができる制度を活用して支援をおこなった。また、一時的に家庭の事情により生活費が不足するなどやむを得ない場合の救済制度として、短期貸付金制度を運用して支援をおこなった。

奨学金による支援状況〈2011年度〉

龍谷大学の奨学金制度（※下表は全て給付型の制度です）

奨学金の種別		支給対象学生数（人）	支給総額（円）
龍谷大学給付奨学金	学業成績優秀奨学生	321	64,200,000
	大学院研究支援奨学生	49	15,420,000
	大学院特別給付奨学生	77	22,644,800
	仏教活動奨学生	21	760,000
	優秀スポーツ奨学生	90	29,042,200
	課外活動等奨学生	11	990,000
	家計奨学生	191	38,200,000
	外国人留学生特別奨学生	69	33,003,000
	法科大学院学業奨学生	14	14,950,000
	BIE Program奨学生	8	1,600,000
	私費派遣留学生奨励奨学金	31	4,650,000
	理工学研究科博士後期課程特別給付奨学金	12	2,826,000
龍谷大学学費援助奨学金	外国人留学生学費援助奨学生	422	127,470,250
	地域人材育成学費援助奨学生	15	11,245,000
	アカデミック・スカラシップ奨学金	41	15,857,500
	法科大学院学費援助奨学生	31	18,449,500
龍谷大学親和会による奨学金	親和会学生活動奨学生	15	2,000,000
	親和会海外研修奨学生	9	1,640,000
	親和会学生救済型奨学生	6	2,144,950
	校友会奨励金	12	600,000
その他	沼田奨学金	6	6,400,000
	北畠給付奨学金	1	365,500
	六角仏教協会奨学金基金	4	600,000
	経済不況に伴う緊急特別経済援助奨学金	76	27,126,890
	合計	1532	442,185,590

奨学金の種別		支給対象学生数（人）	支給総額（円）
龍谷大学以外の奨学金制度			
民間・地方自治体の給付奨学生（16種類）		36	18,320,000
日本学生支援機構の給付奨学生（4種類）		179	50,126,000
民間・地方自治体の貸与奨学生（11種類）		34	16,960,000
日本学生支援機構の貸与奨学生（4種類）		7,364	5,958,388,000

2 学生生活に関する相談・支援

●なんでも相談室

学生生活に係わるあらゆる相談を受け付ける“なんでも相談窓口”を学生部内に設置し、複雑化する相談内容に専門の担当者が適切なアドバイス・情報提供等を行い、学生生活のサポートをおこなった。

●こころの相談室

保健管理センター内に設置した「こころの相談室」において、臨床心理士が学生生活の中で直面する問題や悩みについて心理的なサポートをおこなった。

●トラブル防止作の検討

マルチ商法・架空請求等の悪質商法やカルト宗教の勧誘が活発化する傾向があるため、弁護士会や近隣大学からの情報収集を行うとともに「カルトの被害から学生を守るた

めの基本方針」に基づき、学内に立て看板を設置する等の啓蒙活動をおこなった。また、地域の防犯委員会や警察、学友会と協力し盗難防止キャンペーンを実施した。

●禁煙の推進

5月31日からの「世界禁煙デー週間」の期間中、中央執行委員会と連携し禁煙キャンペーンを実施した。また、2010年度から引き続き「卒煙支援ブース」を各キャンパスに設置し、さらなる禁煙推進策を講じた。

●その他学生生活支援

学生教育研究災害保険への全員加入により、安心して正課・課外活動に参加できるように引き続き支援をおこなった。

3 課外活動の支援

● 課外活動基本方針の堅持

「課外活動は正課授業とあいまって大学教育の重要な一環である」という基本理念に則り、大学で課外活動をおこなうことが人格形成・人間形成に役立つ「教育」の場であるとの認識のもと、大学全体の活性化に向け、積極的な支援に努めた。

● 課外活動推進策の検討

龍谷大学における重点サークル等のさらなる強化策を策定し、従来の重点・強化サークル体制の見直しを実施した。また、新たな重点・強化サークルへの支援策を検討した。

● クラブ活動援助金支出基準に基づく経済的支援の実施

大会遠征や全国大会及び定期演奏会開催等にかかる経費に対する経済的支援を講じ、活発かつ自主的なサークル運営への支援をおこなった。

● アバンティ響都ホールの積極的活用

学生によるホール使用にかかる予約業務を学生が担い、新たな活動施設の管理・運営による自主性、自律性の醸成を図った。また、本ホールを、地域をはじめ学外のサークルの活動発表会の場や、日常の練習の場として提供することにより、新たな活動拠点として積極的な活用を努めた。

4 課外教育の展開

● 新入生フレッシューズキャンプの実施

「建学の精神の普及と醸成及び学生生活を有意義に送るための助言・指導」を目的に新入生フレッシューズキャンプを実施した。在学生ヘルパーが、ホスピタリティ精神を持って運営に携わり、新入生の帰属意識向上や学生生活を送る上で重要となる人的ネットワーク構築を図った。

● 国際性の涵養やリーダーシップ養成を意図した事業（海外友好セミナー）の実施

国際的な視野とキャリアアップにつなげることを目的として、昨年に引き続き海外友好セミナーin USA ～Global Career Program～を実施した。現地大学生との交流や留学する日本人学生との交流を深めることで、国際的感覚の醸成を目指した。また、日本大使館や国連本部、日本企業の現地幹部等関係者との懇談を通じて、グローバルな職業観を身につける機会を提供した。さらに、短期のホームステイ体験を実施することで語学力習得の必要性を感じとる機会とした。

5 学生行事の支援

● 「新入生歓迎イベント」への支援

学友会が「新入生オリエンテーション」期間中に実施する「各種新入生歓迎イベント」に対して、活動に関する助言・指導及びバスの手配などの支援をおこなった。

● 学友会主催「フレッシューズキャンプ」「リーダースキャンプ」への支援

全学生で構成される学友会の4局（宗教局・学術文化局・体育局・放送局）所属サークル員に対して大学生として課外活動を行う上での心構えやリーダーシップ論の講演、経済的支援等をおこなった。

● 「創立記念降誕会」「顕真週間」「龍谷祭」「学術文化祭」等への支援

「創立記念降誕会」「顕真週間」「龍谷祭」「学術文化祭」といった各種学生行事の実行委員に対して、多面的な支援を実施した。特に学生の主体的な取り組みについて、相談や助言・指導・資金面での援助等をおこなった。

● 「夕照コンサート」への支援

本学吹奏楽部と地域の小学校・中学校・高校の吹奏楽団体等とのジョイントコンサートを通して地域との交流を目的とする「夕照コンサート」を多面的に支援した。

● 吹奏楽フェスタin OSAKA

大阪地区において、本学の活動を紹介する機会として、本学吹奏学部と大阪府下の3つの高校（刀根山高校・寝屋川高校・東住吉高校）とのジョイントコンサートをおこなった。課外活動分野における高大接続連携の新しいあり方について、1,200人を超える聴衆にアピールする機会となった。

● 鳥取県との連携協定に基づく事業の実施

鳥取県出身学生と鳥取県関係者（企業・県職員・同県出身の教職員）との世代間交流会を2回に渡り実施した。また鳥取県内において、本学吹奏楽部と鳥取県下の6つの高校（倉吉西高校・倉吉東高校・境高校・境港総合技術高校・鳥取西高校・米子北高校）とのジョイントコンサート「吹奏楽フェスタin鳥取」を開催し、1,500人を超える聴衆に本学と鳥取県との協定をアピールした。



6 学生自治活動の支援

● 「学生中心の大学づくり」の促進

学友会の自治と自主的な活動を尊重することを基本に、大学の構成員である学生・教員・職員の三者の代表によって構成される全学協議会を活用し、学生の要望や意見が反映される「学生中心の大学づくり」が促進されるよう努めた。

● 中央執行委員会との定例ミーティング・専門委員会の活用

学生部と学友会中央執行委員会による定例ミーティングを継続的に開催し意思の疎通を図り、学生が抱えている喫緊の諸問題や課題には専門委員会を開催し問題点の迅速な把握と適切な解決に努めた。

● 学生と教職員のコミュニケーションの推進

中央執行委員会・学部学生会との情報交換会の実施、サークル部長による課外活動指導等とおして、学生と教職員のコミュニケーションを促した。自治活動へのアドバイスや問題点について、あらゆる観点からサポートできるよう努めた。

Ⅱ 事業実績の概要

課外活動の主な成績一覧

〈2011年度〉

サークル名	大会名	開催日	成績	備考
柔道部	第66回国民体育大会柔道競技京都府予選会	4/23	優勝（武智） 準優勝（山本）、準優勝（三山）	
	第82回京都学生柔道大会 第13回京都学生女子柔道大会	5/1	男子 準優勝 女子 優勝	
	全日本ジュニア体重別選手権京都府予選	5/14	優勝（安井）、優勝（谷口）、優勝（山本） 準優勝（西川）、準優勝（小野）、準優勝（増田）	
	第61回関西学生柔道優勝大会 第19回学生女子柔道優勝大会	5/15	男子 第3位 女子 準優勝	
	平成23年度全日本学生柔道優勝大会	6/24	男子 ベスト8	※大会優秀選手賞受賞（鈴木）
	近畿ジュニア柔道体重別選手権大会	7/10	優勝（谷口） 優勝（西川）	
	関西学生柔道体重別選手権大会	9/4	優勝（鈴木）、優勝（西川）、優勝（西川） 準優勝（武智）、準優勝（小野）	
剣道部	第59回関西学生剣道選手権大会	5/15	準優勝（下井）	
	第56回西日本学生剣道大会 第26回西日本女子学生剣道大会	5/28	第3位 女子団体	
	第53回京滋学生剣道大会	6/19	優勝（下井）	
	第27回京都府女子剣道大会 第50回全日本女子剣道選手権大会京都府予選	6/26	優勝	
硬式野球部	関西六大学野球春季リーグ戦	4/3～5/24	優勝	全国大会出場
	関西六大学野球秋季リーグ戦	8/27～	2位	
	関西六大学野球秋季新人戦	11/11～	優勝	※MVP（今西）
端艇部	平成23年度関西選手権競漕大会	7/2～	3位（渡辺・山口・宇野・吉田・小川・渡邊・上田・森本・原田） 優勝（上田・河原） 優勝（安田・武岡） 準決勝4位（河合） 2位（山光・犬飼） 優勝（林）	男子エイト ダブルスカル 舵手無ペア シングルスカル ダブルスカル シングルスカル
	第40回全日本学生選手権大会	8/22～	決勝3位（河原・上田） 決勝3位（武岡・安田） 決勝2位（吉田）	男子ダブルスカル 男子舵手なしペア 男子シングルスカル
	第22回関西学生秋季選手権	11/2～	優勝（吉田）	男子シングルスカル
弓道部	全日本学生弓道選手権大会	8/9	準優勝（坂本）	
卓球部	第53回関西学生卓球新人大会	4/29	優勝（田松）	
	全日本大学総合選手権	7/19～	ベスト8（女子） ベスト32（男子）	
	平成23年度関西学生秋季リーグ戦	8/22	優勝（女子）	
	全日本大学選手権	10/27～	ベスト8（久木・市原）	女子ダブルス
ラグビー部	京都学生卓球選手権大会	12/18	2位（田松） 優勝（久木・市原）	女子シングルス 女子ダブルス
	リーグ戦	11/27	Bリーグ優勝	
陸上競技部	第89回関西学生陸上競技選手権大会	4/28	2位（西川） 2位（芝田）	3000m障害 400mハードル
	秩父杯第66回西日本学生陸上競技対校選手権大会	7/15	2位（中大路）	3000m障害
	第48回関西学生陸上学年別選手権大会 兼 第33回関西学生混成選手権大会	10/25	2位（中瀬古） 優勝（川本） 優勝（伊藤） 優勝（和田） 2位（山本） 優勝（芝田） 2位（芝田）	100m 砲丸投 やり投 100m 10000m競歩 400mハードル 走幅跳
	平成23年度京都府大学バレーボール連盟春季男女選手権大会	6/4	優勝	
	第9回京都府バレーボール・チャンピオン・フェスティバル	12/10	準優勝	
少林寺拳法部	2011年少林寺拳法京都府大会	5/29	優秀賞（栗田・廣山） 優良賞（河田・森）	女子段外の部 女子三段以上の部
	東日本大震災復興支援 第49回少林寺拳法関西学生大会	7/17	2位（小川） 1位（藤井） 2位（栗田・廣山）	単独演武男子段外の部 単独演武女子段外の部 自由組演武女子段外の部
	東日本大震災復興支援 2011年少林寺拳法関西学生大会	12/4	1位（藤井・渡辺）	女子段外の部
バドミントン部	関西学生バドミントン春季リーグ戦大会	4/27～5/7	男子2位 女子優勝	
	関西学生バドミントン選手権大会	6/3～6/22	優勝（山形） 2位（吉村） 2位（東野） 優勝（河崎・牧野） 2位（西・高橋）	男子シングルス 男子ダブルス 女子シングルス 女子ダブルス 女子ダブルス
	西日本学生バドミントン選手権大会	8/28	2位（男子団体） 2位（女子団体） 優勝（松原） 2位（逢澤） 2位（稲葉）	男子シングルス 男子ダブルス 女子シングルス
	関西学生バドミントン秋季リーグ戦大会	9/10	男子2位 女子優勝	春秋連覇
	近畿総合バドミントン選手権大会	9/24	2位（小林・尾崎） 2位（稲葉） 2位（河崎・牧野） 優勝（小林・高橋）	男子ダブルス 女子シングルス 女子ダブルス 混合ダブルス
女子バレーボール部	平成23年度京都府大学バレーボール連盟春季男女選手権大会	6/4	優勝	3連覇
	平成23年度西日本大学バレーボール女子選手権大会	6/23～6/26	3位	
	平成23年度関西大学バレーボール連盟秋季リーグ戦	9/10～10/30	優勝 ベストサポーター賞	4連覇
	平成23年度京都府大学バレーボール連盟秋季男女選手権大会	11/12	準優勝	
アメリカンフットボール部	第58回秋父宮妃賜全日本バレーボール女子選手権大会	12/5～12/11	ベスト16	
	秋季リーグ戦	11/26	1部5位	
準硬式野球部	平成23年度京滋六大学準硬式野球新人戦	6/4～6/19	優勝	4連覇
バトンチア・SPRITS	第33回関西学生バトン・チアコンテスト	7/3	金賞・グランプリ・毎日新聞社賞 金賞	チームバトンの部15連覇 チアリーディングの部
	第29回関西バトントワリングコンテスト	6/19	金賞（竹内） 銀賞（竹内） 銀賞（井上）	最上級ソロトワール部門 中級2バトン部門 上級2バトン部門
吹奏楽部	全日本吹奏楽コンクール		銀賞	
	全日本アンサンブルコンテスト	3/20	銀賞	

3 ボランティア活動の支援について

ボランティア・NPO活動センターは、ボランティア活動を共生教育のひとつとして位置づけ、思いやりと責任感のある行動的な人間を育成し、社会貢献に寄与することを目的としている。そのために、国内外の高等教育機関、各種のNPO・NGO、浄土真宗本願寺派、地方公共団体等との交流を深め、学内外における様々なボランティア活動の振興を図っている。

●東日本大震災の復興支援活動

3月11日に発生した東日本大震災に対して、本センターが事務局となり、募金活動、ボランティア説明会、ボランティアバス(宮城県石巻市中心)、被災地(福島県・宮城県)の物産品販売、東日本大震災復興支援フォーラム(石巻市社会福祉協議会、東北福祉大学、石巻専修大学)、吹奏楽部演奏会(宮城県本吉郡南三陸町)等の復興支援活動をおこなった。

●ボランティアリーダーの育成

ボランティアリーダー育成事業では、ボランティアリーダー養成講座(入門コース、養成コース)を4回実施した。学内外で活躍する方々を講師として招聘し、講義やワークショップをおこなった。

●海外・国内でのボランティアの体験

海外体験学習プログラムでは、学外団体が主催するスタディツアー6企画に学生28名が参加し、7カ国を訪問した。国内体験学習プログラムは東日本復興支援活動のため実施を1年延長した。

●一般学生・教職員へのボランティアの啓発

ボランティアコーディネーターと学生スタッフの協働により、ボランティア事業やキャンペーン・講演会等を実施し、一般学生・教職員へボランティアの啓発を図った。

●地域社会への“つながり”

地域の学外団体との関係をより強めるため、既存の事業の他に、深草キャンパス近隣自治会と京都市長や当センター学生スタッフ参加による「おむすびミーティング」や伏見区深草商店街イベントへのボランティア参加等の事業が実施された。

●センター活動広報の強化

HPIについてリアルタイムで記載できるよう運用方法を工夫した。学生向けの広報については学生スタッフが、教職員向けの広報についてはセンターが中心となって広報誌を制作・配付した。また、本学が取り組んだ東日本大震災復興支援活動の広報も積極的に行い、多くの学生の活動がマスコミに取り上げられた。

●学生スタッフとの協働と学生スタッフへの支援

ボランティア・NPO活動センター会議において、教職員と学生スタッフとが知恵を出し合ったり、率直な意見交換をおこなったりするなどをし、事業を作り上げる仕組みを充実させた。

●正課教育(教養教育)におけるボランティア関連科目の設置

他大学等の調査を行い、ボランティア関連科目群の設置に向けた検討をおこなった。

4 国際交流について

中東諸国における政変やEU加盟国の財政危機問題、さらに我が国においては東日本大震災の発生に伴う放射能汚染の問題などが生じる中、本学では、様々な文化的背景を持つ人々が集まる国際社会に対応できる人材の育成を目指し、コミュニケーション能力や異文化理解を醸成できるよう、様々な教学展開を実施してきた。

また、「第4次長期計画」から一貫して、学生交換協定校の拡大や龍谷大学パークレーセンターを拠点とするBIE Programを通して、学生に留学しやすい環境を提供するとともに、文化的背景の異なる留学生を広範に受け入れることで、「多文化共生キャンパス」の実現をめざす政策を堅持してきた。

さらに、「第5次長期計画」では、「進取と共生 世界に響きあう龍谷大学」をスローガンに掲げ、英語による学位取得課程や短期受入プログラムの一層の拡充を目指し、検討に着手している。

一方、危機管理の観点からも様々な対応を講じ、「タイ大洪水」では、危機対策本部を立ち上げ、派遣交換留学生を一時帰国させる等の措置を講じた。

1 海外ランチRUBeCの活用

●理工学研究科のプログラムの展開

理工学研究科がカリフォルニア大学デービス校(UC Davis)との連携により、「東洋の倫理観に根ざした国際的技術者養成」を目標とする「RUBeC演習」(大学院科目)を、2011年度もRUBeCにおいて開講し、理工学研究科修士課程の大学院生12名が履修した。

●BIE Programの充実

従来の留学説明会に加え、留学を経験した学生達のボランティア組織であるSABS(Study Abroad Advisor)の活動等も積極的に実施した結果、Semester Program(Spring, Fall)、5-Week Program(Summer, Spring)の4つのプログラムを通して、合計102名の学生が参加した。

●国際シンポジウムの開催

ハーバード大学、スタンフォード大学及び南カリフォルニア大学から研究者を招聘して、「日本の仏教と文化」というテーマで国際シンポジウム(会場:スタンフォード大学)を開催し、米国の仏教研究者、日本の研究者や大学院生間の研究交流を推進した。



2 海外の大学等との交流

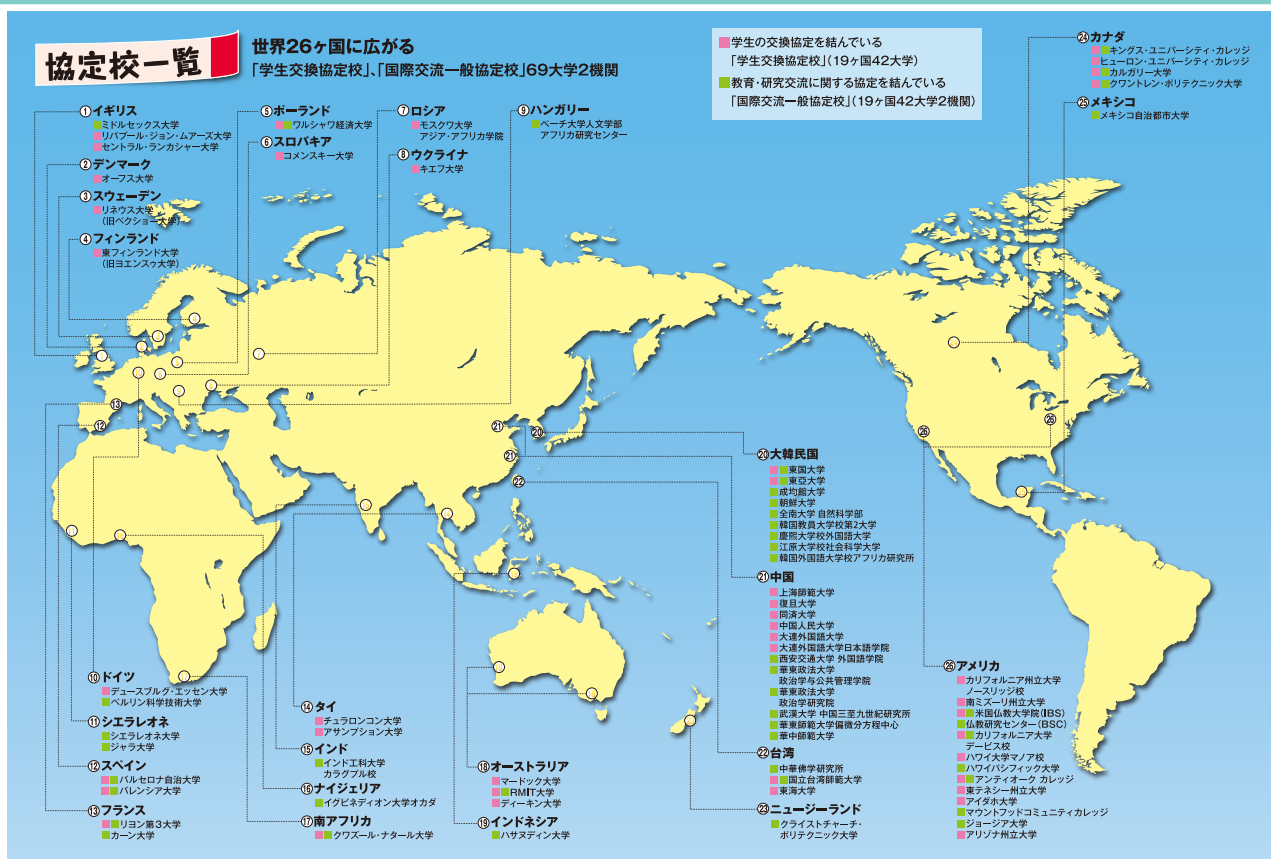
● 学生交換協定校の開拓

2011年度は新たに、ディーキン大学（オーストラリア）、セントラル・ランカシャー大学（イギリス）と学生交換協定を締結し、英語圏の協定校を充実することができた。

また、国際交流に関する一般協定の締結も積極的に進め、華東政法大学（中国）、中国蔵学研究中心（中国）、イグビ

ネディオン大学オカダ（ナイジェリア連邦共和国）、ジャラ大学（シエラレオネ）、華東師範大学微分方程中心（中国）、江原大学校社会科学大学（韓国）、韓国外国語大学校アフリカ研究所（韓国）、パーチ大学人文学部アフリカ研究センター（ハンガリー）と一般協定を締結した。

世界に広がる「学生交換協定校」「国際交流一般協定校」



本学から海外に留学した学生数〈2011年度〉

留学先		人数	留学先		人数
アジア	タイ	4	ヨーロッパ	英国	41
	大韓民国	27		スウェーデン	5
	中国	27		スペイン	6
	台湾	3		ドイツ	3
	イラン	14		フィンランド	5
北米	カナダ	46		フランス	8
	アメリカ	148		マルタ	7
オセアニア	オーストラリア	22		アイルランド	5
	ニュージーランド	3		ポーランド	1
				ロシア	1
			合 計	376	

海外から受け入れた留学生数〈2011年度〉

国名等		人数	国名等		人数
アジア	インドネシア	6	ヨーロッパ	イギリス	3
	大韓民国	22		ウクライナ	2
	カンボジア	2		スウェーデン	4
	シンガポール	1		スペイン	2
	スリランカ	2		チェコ	1
	タイ	4		デンマーク	2
	台湾	15		ドイツ	1
	中国	441		フィンランド	3
	ベトナム	4		フランス	1
	マレーシア	2		ポーランド	1
オセアニア	ミャンマー	4	ロシア	3	
	モンゴル	2	エストニア	1	
	香港	2	スロベニア	1	
	オーストラリア	5	中東	イラン	1
	フィジー	1	中南米	ブラジル	1
	ニュージーランド	1	北米	アメリカ	11
			カナダ	4	
			合 計		556

●短期受入プログラムの充実方策の検討

学生交換協定校等の短期受入プログラムとして、カリフォルニア大学デービス校（アメリカ）、クワントレンポリテクニック大学（カナダ）、アンティオーク大学（アメリカ）、マウントフットコミュニティカレッジ（アメリカ）、韓国教員大学校第2大学（韓国）、江原大学校（韓国）、韓瑞大学校（韓国）から、66名の学生を受け入れ、国際交流に興味を持つ本学学生が日本での生活を支援するとともに、異文化理解を深めた。

3 留学生別科の展開

●留学生別科の運営体制

留学生別科では、各学期の最初にプレースメントテストを実施し、その結果を踏まえて日本語能力レベルを5段階に分け、合計7クラスに編成して開講している。また、交流型プログラム、進学型プログラムに分け、交換留学生、留学生別科生それぞれのニーズにあったプログラムを提供した。

●新別科・新JCLPプログラムの検討

2013年後期からの導入を目指し、新別科プログラム（仮称）及び新JCLP（Japanese Culture and Language Program）の開設に向けて検討した。また、国際文化学部との連携を密にし、JAS（Japanese and Asian Studies）とJCLPの統合についても検討した。

4 外国人留学生の教育・生活支援

●就職支援の強化

KYOの海外人材活用推進協議会実施の「留学生就職支援・人材バンク登録事業」などを積極的活用し周知するとともに、キャリア開発部と連携し、外国人留学生の就職支援に努めた。

●留学生の住環境整備

5つの留学生寮（龍谷会館、大宮荘、International Houseともいき、ルミエール間宮、向島学生センター）に、常時約200名の留学生を受け入れた。各寮には2～4名の留学生寮・学生生活アドバイザーを配置して連絡を密にし、寮運営の問題点や課題の解決に迅速に対応した。

●奨学金の継続実施

2010年度から「政府開発援助外国人留学生修学援助費補助金」が廃止されたが、本学では外国人留学生の経済的負担を軽減する観点から、学費援助奨学金制度（授業料の50%を減免）を継続して実施した。また、優秀な留学生を対象とした外国人留学生特別奨学金の給付もおこなった。

●留学生住宅保証による支援

2010年度から新にスタートした「留学生住宅支援制度」は、外国人留学生の住宅入居時の保証人確保の困難を解消するため導入された。本学は本制度の協力校であることから、本学の外国人留学生は本制度を利用し円滑に住宅入居ができるようになった。